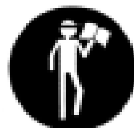
121510 　　080805#004KTP

フロアージャッキ＆ジャッキスタンド 取扱説明書

フロアジャッキ	ジャッキスタンド
能力：２トン	能力：２トン
最低位：１２３mm	最低位：２７０mm
最高位：３６０mm	最高位：４１０mm



⚠警告



製品を使用する前に取扱説明書を注意深く読み、よく理解してから使用下さい。
この取扱説明書はいつでも使用できるように大切に保管して下さい。

取扱説明書が現品と異なる場合は、販売会社までご請求下さい。



株式会社　レックス

〒501-0222 岐阜県瑞穂市別府611-1
TEL. 058-326-7166 （代表）　FAX. 058-326-7165

はじめに
この度は、フロアージャッキ（能力2トン）＆ジャッキスタンド（能力2トン）をお買い上げ頂き誠に有り難うございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を十分に読み、注意事項、使用方法を十分にご理解頂いた上で正しくご使用下さい。説明書の内容について不明点やご質問がある場合は、ご購入になりました販売店までお問い合わせ下さい。
また、製品のご使用にあたっては、タイヤ整備、自動車整備のご経験のある専任の作業者が行って下さい。この時、取扱説明書の内容及び注意ステッカーに示されている注意事項、取り扱い方法の全てをご理解頂いてからご使用下さい。

１．安全について

■警告表示について
この取扱説明書では、使用者及び周囲の方々や財産に損害を与えない為の警告表示をしています。警告表示は警告ラベルの記号と警告文の組み合わせで表示されています。

⚠警告

正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあることを示します。

⚠注意

正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあることを示します。
また、当該製品自体または、他の使用者の財産に対して損害を与えるおそれがあることを示します。

⚠警告

フロアジャッキ＆ジャッキスタンドを安全にお使い頂く為に、以下の項目を必ずお守り下さい。正しく使用しない場合、死亡または重傷のおそれがあります。

作業区分	警告事項
破損･負傷について	本製品は取扱説明書に記載されている使用方法で正しく使用して下さい。正しく使用されていない場合、製品が破損したり、作業者が負傷する場合があります。
	製品に表示された能力以上の車両をジャッキアップもしくはジャッキスタンドで支持しないで下さい。製品が破損するだけでなく、ジャッキやジャッキスタンドが急激に下降したり倒れたりして、作業者が負傷する場合があります。
破損･負傷について	必要以上の高さまでジャッキアップしないで下さい。車体が不安定になり、ジャッキが外れ製品が破損したり、作業者が負傷する場合があります。
	ジャッキアップ中に車両の下へ絶対に入らないで下さい。（身体の一部も入れないで下さい。）車体が不安定になり、ジャッキが外れ作業者が負傷または死亡する可能性があります。
	輪止めを使って車両が動かないようして下さい。車体が不安定になり、ジャッキが外れ作業者が負傷する可能性があります。
	人や物を乗せたままでジャッキアップしないで下さい。ジャッキの能力を超える場合があり、ジャッキが外れ作業者が負傷または死亡する場合があります
	自動車メーカーが指定するジャッキアップポイント以外でジャッキアップやジャッキスタンドで支持しないで下さい。車体が不安定になり、ジャッキが外れ作業者が負傷または死亡する場合があります。
	傾斜した場所や、柔らかい場所でジャッキアップしたり、ジャッキスタンドで支持しないで下さい。車体が不安定になり、ジャッキが外れ作業者が負傷または死亡する場合があります。
	ジャッキアップした後は必ず付属のジャッキスタンド（リジットラック）を使用し、落下防止対策を行って下さい。ジャッキだけでジャッキアップしたまま車両の整備をしないで下さい。

⚠注意

フロアジャッキ＆ジャッキスタンドを安全にお使い頂く為に、以下の項目を必ずお守り下さい。正しく使用しない場合、軽傷または中程度の傷害を負うおそれがあります。

作業区分	注意事項
故障･損傷について	極端な高温、低温下や温度変化の激しい場所では使用しないで下さい。故障の原因となります。
	塩害を受ける地域では使用しないで下さい。故障の原因となります。
	衝撃や振動の加わる場所では使用しないで下さい。ジャッキやジャッキスタンドが外れる恐れがあります。
	薬品の雰囲気中や薬品に触れる場所では使用しないで下さい。

２．製品の構成について

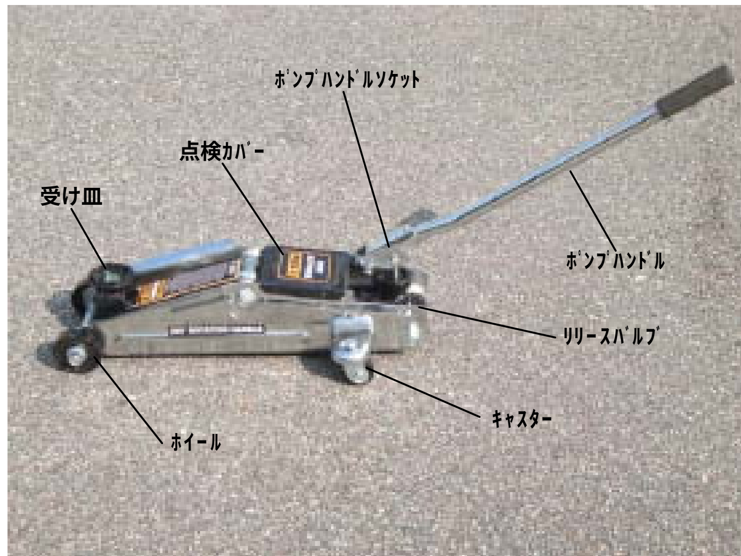
梱包から製品を取り出し、全ての備品が揃っているか必ず確認して下さい。

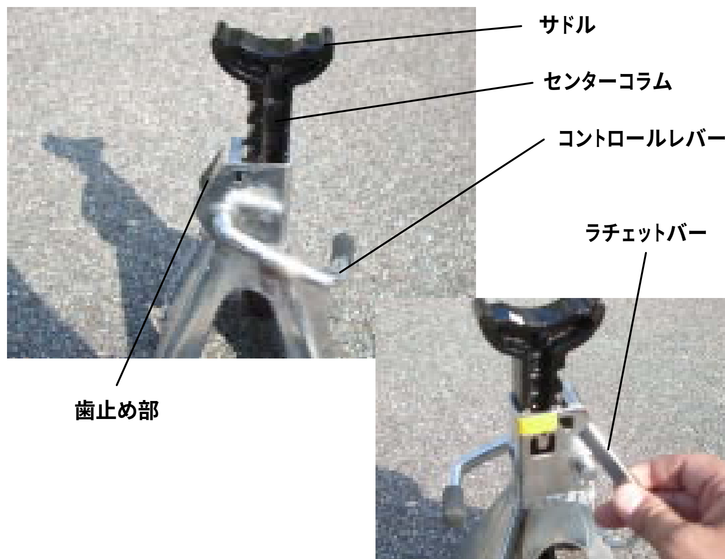


■本製品に含まれるもの
①フロアージャッキ本体　②ハンドル　③ジャッキスタンドｘ２基
④取扱説明書

121510

■各部の名称





3. 製品の使用方法について（ジャッキ）

■ジャッキアップ

3－1. ジャッキおよびジャッキアップする車両が十分な強度を持った床面上にあり、傾斜がない事を確認して下さい。

3－2. 車両のサイドブレーキを掛け、2つ以上の車輪にタイヤ止めを使用して、ジャッキアップ中に車両が動かないように処置して下さい。

3－3. ジャッキアップする車両のジャッキアップポイントを車両のマニュアルで確認し、適切な位置でジャッキアップして下さい。




オイルパンは不可




リアトーションビームは不可

3－4. リリースバルブをジャッキハンドルで時計周りにまわして完全に閉じて下さい。
この時、締めすぎに注意して下さい。きつく締めすぎるとバルブが破損する恐れがあります。




ﾘﾘｰｽﾊﾞﾙﾌﾞ　ｼﾞｬｯｷﾊﾝﾄﾞﾙ

3－5. ジャッキポイントを再確認し、ジャッキハンドルをポンプ側へ差し込んでポンプを上下して、ジャッキを上昇させます。




ﾎﾟﾝﾌﾟﾊﾝﾄﾞﾙｿｹｯﾄ

⚠警告

ジャッキアップ中に車両の下へ絶対に入らないで下さい。
車体が不安定になり、ジャッキが外れ作業者が負傷または死亡する可能性があります。

⚠警告

ジャッキアップした後は付属ジャッキスタンド（リジットラック）を使用し、落下防止対策を行って下さい。
ジャッキスタンドを使用しない場合、車体が不安定になり、ジャッキが外れ作業者が負傷または死亡する場合があります。

■ジャッキダウン

3－6. ジャッキスタンドより一旦高くジャッキアップし、ジャッキスタンドを外します。

3－7. リリースバルブをジャッキハンドルで反時計周りにゆっくりとまわして、少しずつジャッキを下げて下さい。この時リリースバルブを急激に開放しないで下さい。（半回転で十分下降します。）

3－8. 車両が完全に接地し、ジャッキが車両から離れるまで確認しながら作業を行って下さい。

■その他の機能

3－9. 360°回転式ポンプハンドルソケット
ポンプハンドルソケットは360°回転しますので、どの方向からもジャッキアップアップすることが可能です。

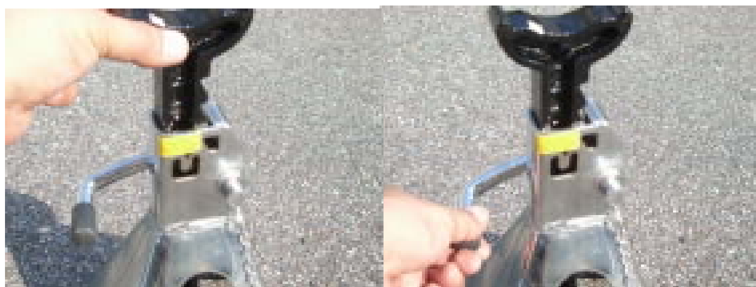


⚠注意

ジャッキアップ時ハンドルが車体と接触しない角度でご使用下さい。
車体の近くでハンドルを操作すると、車体にハンドルが接触し、車体を損傷する可能性があります。

4．製品の使用方法について（ジャッキスタンド）

4－1．高さ調整
高さ調整は、サドル部を持って、センターコラムを必要な高さまで引き出します。
この時ラチェット機能により、歯止めがセンターコラムに掛かります。
コントロールレバーを下げて確実に歯止めが掛かった事を確認して下さい。



4－2．ラチェットバーによる安全対策
歯止めの動作を制限し高さを維持するためには、ラチェットバーを所定の場所へ入れる必要があります。
より確実にロックを掛ける意味でラチェットバーを入れて高さを決定してから、車両を乗せて下さい。
また、サドルを持って本製品を移動する場合にも便利です。



4－3．ジャッキスタンドの使用
高さを決定したジャッキスタンドをジャッキアップした車両の下へ入れ、カーメーカーが指定したジャッキポイントへ掛けて下さい。
再度ジャッキスタンドの歯止めが掛かっている事を確認し、車両をゆっくりと下降させます。
ジャッキスタンドのサドル部と車体が接触した時点で一旦ジャッキによる下降を停止し、ジャッキスタンドのサドルが正しくジャッキポイントに掛かっているか再確認します。
もし、ジャッキポイントと、サドルの位置がずれている場合は、もう一度ジャッキを上げて、ジャッキスタンドの位置合わせを行って下さい。
サドルとジャッキポイントが正しく合っているいる事を確認したら、ジャッキを下げて、ジャッキスタンドの上に車両を乗せます。
この時、ジャッキは車体に掛からない程度まで下げて、万一の落下に備えて下さい。

⚠警告

自動車メーカーが指定するジャッキアップポイント以外でジャッキスタンドを使用しないで下さい。
車体が不安定になり、ジャッキスタンドが外れ作業者が負傷または死亡する場合があります。

⚠警告

製品に表示された能力以上の車両をジャッキスタンドで支持しないで下さい。
製品が破損するだけでなく、ジャッキスタンドが破損したり倒れたりして、作業者が負傷する場合があります。

4－4．ジャッキスタンドの取り外し
車両を再度ジャッキアップし、ジャッキスタンドのサドル部と車両が離れた時点でジャッキスタンドを取り外して下さい。
取り外したジャッキスタンドは、ラチェットバーを抜き、コントロールレバーを引き上げて、サドル位置を最低位に戻して下さい。
ジャッキを慎重に下降させて、車両のタイヤが十分に接地し、ジャッキの受け皿が車両から完全に離れたら、ジャッキを車両下から取り出して下さい。

5．製品の点検とメンテナンスについて

本製品は、取扱説明書に従ってメンテナンスを実施して下さい。また、本製品を改造したり、他の製品と結合･連結させて使用しないで下さい。

5－1．ジャッキおよびジャッキスタンドを使用する前に、目視点検により製品に以下の問題がないか確認して下さい。（日常点検）
■溶接部のひび割れ、■損傷、■曲がり、■摩滅、■緩み、■欠品

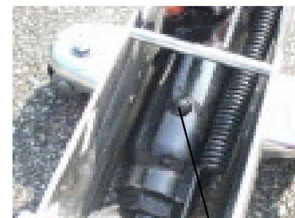
5－2．能力以上の荷重を受けたり、大きな衝撃を受けた場合は、専門の技術者による点検を必ず受けて下さい。

5－3．ジャッキ各部の給油（一ヶ月毎）
■ポンプ作動部、■ジャッキアーム支点各部、■受け皿回転部

5－4．ジャッキおよびジャッキスタンドの目視点検
（一ヶ月毎点検カバーを外して）
■溶接部のひび割れ、■損傷、■曲がり、■摩滅、■緩み、■欠品
■油圧オイル漏れ

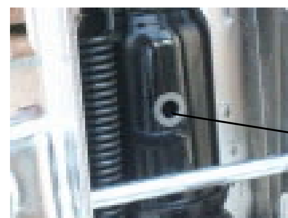
5－5．ジャッキシリンダーオイルレベル（一ヶ月毎）
以下の手順で油量を確認し、不足している場合はタービン油３２番相当のオイルを充填して下さい。この時オイルは全量交換して下さい。
■リリースバルブを反時計回りに緩めて、ジャッキを完全に下げて下さい。下がりが遅い場合は受け皿部を押して完全に下げて下さい。
■点検カバーを外します。（手で外れます。）
■ジャッキを水平状態にして、オイル注入プラグ（ゴム製）を外します。
■ポンプハンドルソケットを下にして、ジャッキをゆっくりと立てた状態にします。（油量が多いと注入口からオイルが漏れてきます。）
■この時、オイルレベルはオイルフィル穴の一番下になければなりません。この時オイルを多く入れすぎないで下さい。
■オイル注入プラグと点検カバーを確実に取り付けます。
■ジャッキが正しく作動するか確認します。
■必要に応じてシリンダーのエアー抜きを行って下さい。





点検カバー

オイル注入プラグ
（ゴム製）



注油口
＊プラグを外した状態

5－6．シリンダーエアー抜き（使用開始前および必要に応じて）
■リリースバルブを反時計回りに一回転緩めて下さい。
■ポンプハンドルを8回程度フルストロークさせて下さい。
■リリースバルブを時計回りに回して完全に閉めて下さい。
■ジャッキが最高位に達するまでポンプハンドルを動かし、最高位になった状態から、エアーを抜くために数回ポンプハンドルをストロークさせ続けて下さい。
■この状態でオイル注入プラグを慎重かつゆっくりとエアーを抜くために外します。（エアーが抜ける音が”シュッ”とします。）
■オイル注入プラグと点検カバーを確実に取り付けます。
■リリースバルブを半回転緩めて、ジャッキを完全に下げます。この時必要であればジャッキを押し下げて下さい。
■ジャッキが正しく作動するか確認します。
■問題が解決されていない場合は再度エアー抜きを行って下さい。それでもなお問題が解決しない場合は、ジャッキ内部の部品の消耗や破損が考えられます。